

羊ヶ丘養護園安全委員会だより

羊ヶ丘養護園 VOL.48 令和3年12月28日 発行者 千葉

第57回安全委員会が12月10日に開催されました。

今年度3回目の安全委員会を開催させて頂きました。ようやくコロナも少し落ち着いてきたこともあり、今年度初の対面での会議が実現しました。報告ケースは令和3年8月13日から令和3年11月15日までの全12ケースであり、依然小学校低学年男子の暴力が多いものの、高校生男子の暴力に関しては重篤なものに繋がる恐れもあるとして今回嚴重注意の審議の対象とさせて頂きました。また、安全委員会の報告に上がってこない児童に関しても学校適応に不安を覚える児童がいることから、今後より一層小中学校をはじめとした関係機関との連携が必須であることも確認することが出来た会議でありました。

今年度上半期より見られた当園の性暴力とその対応については、再発防止策が一定の効果を得ているとの評価を頂き、「当事者を切り離す」「環境を整える」等の基本的な対応が大切である事が改めて確認されました。

A君の現状と今後の対応について

はばたきユニットで起きる暴力の大半はA君が加害のものです。最近では学校適応も良くない状況で、他ユニットに所属している年上児童と一緒に学校を徘徊するなどの逸脱行動が目立っています。施設と学校双方でA君の頑張りを評価し成長を促していますが、結果が伴っていない現状があります。各委員からもA君のことを心配する声が上がっており、今後状況が変わらないようであれば、嚴重注意も視野に入れて対応していくことや、本児と行動を共にする事が多い小6児童も併せて学校との連携が必須のケースであることが会議では確認されました。

新任職員とA君の関わり方の変化

はばたきユニットの暴力発生件数は依然横ばいであります。新任職員の多いユニットであることもあり、児童と職員の関係性から起因するトラブルも年度当初は非常に多く、新任職員の皆さんは「自分のせいでユニットが落ち着かないのでは」とさぞかし悩まれていたことと思います。しかし、トラブルが多いことが逆に功を奏したのか、その後新任の先生方はメキメキと力を付け始め、A君の暴力に対しても最近では自分たちで解決に向かえることが増えてきました。現在のA君の様子について意見を求められた陪席職員の千葉は「先輩方の指導の仕方を見て学び、トラブルを未然に防ぐことができるようになってきたことや、A君の語りにも耳を傾けることで関係性が変化したことが大きい」と会議で説明していました。低学年児のユニットである為、何かと大変なことが多いとは思いますが、子どもも職員も今後の更なる成長に期待をしたいと感じたエピソードでした。

A君の嚴重注意の審議

高2のB君ですが、社会に出る前に、広く大人の話をお聴きする機会を持つことで、自身の言動が与える影響や、正しい対処の方法に気付いてもらう為に、次回の定例安全委員会で嚴重注意をする事になりました。

～お知らせ～

九州大学名誉教授の田嶋誠一先生が1月に来札されるという事で、令和4年1月26日の当園の第58回定例安全委員会及び、翌27日予定の園内研修にご出席頂けることとなりました。

今回初めて定例安全委員会に陪席させて頂きました。緊張しながらも前回の定例安全委員会からの子ども達の変化や様子を聞いていました。澤委員長から直接子どもとの関わり方でどのように変わったのかを聞かれた際には最初は戸惑ってしまう事もありましたが、実際にはばたきユニットで行なっている事を会議の場で共有出来たことで、自分のケアに自信を持つことが出来たように思います。これからも暴力が起こった際にはきちんと子どもと向き合い解決していきたいと思いました。

保育士 千葉 来瑠美